

中央災難安全対策本部定例ブリーフィング(9月8日)

(9月8日付保健福祉部報道資料(該当部分仮訳))

～(コロナ鬱のカウンセリング状況)～

新型コロナウイルス感染症-19中央災難安全対策本部(本部長:丁世均(チョン・セギョン)国務総理)は、本日、金剛立(キム・ガンリプ)第1総括調整官(保健福祉部次官)主宰により、政府ソウル庁舎ソウル状況センターにおいて、各中央省庁及び17の広域自治体とともに、コロナ鬱のカウンセリング状況等について議論した。

政府は、コロナ19の長期化により、社会的孤立、外出自粛等による不安感と鬱の増加、それに伴う自殺増加への懸念等、コロナ鬱(コロナブルー)現象が拡大したことから、心理カウンセリングの対策を講じている。

鬱・不安感を感じる国民のために、心理カウンセリング・ホットライン(1577-0199)を運営し、小規模事業所・経済的脆弱層に対して全国17の市・道の災難心理回復支援センターを通じて心理カウンセリングを行っている。

※ 1日の情報提供件数: (8月14日) 3,085 → (8月20日) 6,244 →
(8月26日)10,193 → (9月4日) 12,300

1日の相談提供件数: (8月14日) 2,457 → (8月20日) 3,378 →
(8月26日) 4,570 → (9月4日) 4,424

また、9月3日からは、コロナ鬱で相談する方々のうち、鬱病や不安等の症状が深刻な高危険群に対しては、民間の専門家によるディープカウンセリングを実施している。

- ディープカウンセリングとは、関連学会(※)から推薦を受けた精神健康医学科の専門医、精神健康専門要員1級資格の所持者などの専門スタッフが最大3回まで実施するものである。

※ 大韓神経精神医学会、韓国心理学会、韓国トラウマストレス学会

- 相談中に直ちに介入及び治療が必要な場合は、精神健康医学科(精神医療機関)へ直接連絡するか、地域精神健康福祉センターへ依頼要請する。
- また、相談終了後にも引き続き相談が必要であると判断した場合には、精神健康福祉センターに連絡してケースマネジメント(事例管理)等を行う。

政府は、「コロナ19の防疫だけでなく、国民の心理防疫にも細心の注意を払う」と述べた上、

- 「コロナ19に関するニュースを見ると心が重く、心配と不安を感じる方や、話せない悩みを抱えている方は、メンタルヘルス相談窓口(1577-0199)又は自殺予防相談窓口(1393)に相談すること」を呼びかけた。

【原文URL】

[http://www.mohw.go.kr/react/al/sal0301vw.jsp?PAR_MENU_ID=04&MENU_ID=0403&page=1&CO
NT_SEQ=359800](http://www.mohw.go.kr/react/al/sal0301vw.jsp?PAR_MENU_ID=04&MENU_ID=0403&page=1&CO
NT_SEQ=359800)